

さんりく 明日へ

東日本大震災を乗り越えて、
前に進もうとする三陸の人たちからの
メッセージを届けます。



昭和10年(1935)創業の伊藤商店。寧子さんが嫁入りした昭和37年ごろは、マグロなど鮮魚の出荷もしていたという。寧子さんが陣頭指揮を執り、それぞれの夫とともに純子さんが加工や販売、寿子さんが事務全般を受け持つ。

伊藤商店
岩手県釜石市大町1-3-4
<http://www.kaneshoito.co.jp/>

釜石市で水産加工業と冷凍冷蔵保管業を営んでいる伊藤商店の社長・伊藤寧子さんは、東日本大震災の津波で自宅も本社も工場も失った。会社が受けた被害の全容が明らかになるにつれ、気が萎えていった。

それを前向きにさせたのが、次男の嫁である純子さんだ。大槌町にある加工場が土台と柱を残して建っていたのを見て、再建できると直感した。それを後押ししたのが、三男の嫁である寿子さんである。

「この子たちが一所懸命なの。その姿を見ると、私もがんばらなきゃと思うのよ」

加工場を修繕し、ワカメの加工

を再開。再出荷にあたって、パッケージを新しくした。「これには、支援してくれた皆さまやお客さまへの感謝と、これからがんばっていくという決意を込めています」と寧子さん。

いずれは、自慢の手作り「さんまのみりん干し」や塩辛を復活させたいと願っている。

「そのためには、もつとがんばってもらわなければ……。ね、お義母さん!」

「そろそろ楽をしようと思つていたのに(笑)」

「無理、率先して働くくせに」

実の親子のような会話が続く。この様子なら、塩辛が店頭に並ぶのは、すぐかもしれない。

浜の元気なお母さん
伊藤寧子さん

おいしいワカメに
感謝の心を込めています

